

科目名	ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】	【2. 汎用的技能】	【3. 態度・志向性】	【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】	科目の教育目標			
			(1)数学、自然科学および情報工学、知能工学、光工学の専門的知識に基づき、複数の理学と情報工学、知能工学、光工学分野を組み合わせ問題解決できる。	(2)複数の理学と情報工学、知能工学、光工学の専門的知識・技術を活用して情報・光システム全体を俯瞰できる。	(1)系統的な専門教育課程のもとで情報、知能、光の科学技術に関する課題を創造的に見出し、与えられた制約のもとで論理的に問題解決できる。	(2)日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力及び国際的文化的理解し、国際的に通用するコミュニケーションができる。		(1)科学技術に携わるものとして、幅広い視野で社会的責任と倫理観を絶えず意識しながら個々の使命感を持って自律的に行動できる。	(2)常に目的意識を持って継続的、自主的に学習でき、独自の工夫やアイデアにより新しいものを創出できる。	(1)現状の情報・光システムにおける社会的課題を分析し、複数の専門的知識・技術を統合して解決し、その成果を社会に還元できる。
教養科目群			グレーの部分は、○・◎不要です					人間、文化、社会、自然に関わる幅広い学問領域から、「もの考え方・捉え方」を学び、様々な知見を自らの分野に援用し、応用できる感性・知性の修得を目指す。		
	歴史と文化				○	○		<ul style="list-style-type: none"> 人文科学分野（歴史学、思想、倫理学、文学、芸術、考古学、地理学、文化人類学など）を中心に学ぶ。 人間が創造してきた文化や社会の特質、またはそれらの変遷等を学ぶ。 様々な地域、時代、分野の人間の営みを学ぶことで、これからの世界で生きていくために必要な、「物事を複眼的に捉える知」を身につける。 		
	人間と生命					○		<ul style="list-style-type: none"> 人間の思考・行動と身体・生命に関わる科学的・倫理的課題についての思考を深める。 生命についての基礎的な知識を得て、生命に関わる問題への適切な判断や生命倫理、倫理的であることの意味などの根拠的な問を思索することをテーマとし、科学リテラシーと人間・生命の理解を統合的に考える。 人文科学分野（哲学、倫理学など）、行動科学分野（心理学、教育学など）、生命科学分野（生物学、生命科学など）を含む複合的な分野を学ぶ。 		
	生活と社会					○		<ul style="list-style-type: none"> 社会の現象の理解、人間の集団の特性、社会の成り立ち、それを律する法律、社会を動かしている経済、政治、国際的関わりなどについての理解を深める。 社会科学分野（法学、政治学、経済学、経営学、社会学など）を中心として、医学分野、工学・技術分野などへ裾野を広げる。 		
	自然と技術		○				○	○	<ul style="list-style-type: none"> 自然の構造や成り立ち、物質の反応の有様、現象のあり方と科学技術の進歩について理解し、さらには科学技術の社会生活への影響などについて考える。 技術が社会を動かす時代において、技術の基盤、自然についての理解、技術と環境との調和など幅広く科学リテラシーを身につける。 自然科学に工学、医学、歯学、薬学等の応用的な分野を含めることで、現代的な課題を広く学ぶ。 	
	ウェルネス総合演習						○		<ul style="list-style-type: none"> 健康で生きがいと人間性に満ちた心身の健全性を意味する「ウェルネス」について、スポーツ、生活科学、文化をテーマにしながら講義と演習、実習により総合的に学び、考える。 	
創成科学科目群			グレーの部分は、○・◎不要です					現代社会の諸問題を学び、それらの課題を主体的に捉える態度を身につける。		
	グローバル科目				○	○		○	<ul style="list-style-type: none"> 異なる価値観や文化を知り、それらを認め合い、さらに積極的なコミュニケーションを図るグローバル人材として必要なことを学ぶ。 	
	イノベーション科目						○		<ul style="list-style-type: none"> さまざまな領域における創造的思考と、それを実現するための「ものづくり・ことづくり」や「協働推進・プロジェクト推進」のための技法を学ぶ。 	
地域科学科目							○	○	<ul style="list-style-type: none"> 地域問題を、自らの課題として受け止められる公共の精神と、地域における組織人として必要な資質を得ることを目指し、地域創生、地域貢献の意義などの体験的学習も含めて学ぶ。 	
基礎科目群			グレーの部分は、○・◎不要です					大学での専門分野を学ぶ前提となる基礎学力を修得する。		
	SIH道場		○				○		<ul style="list-style-type: none"> 専門分野の早期体験、ラーニングスキルの習得、学習の振り返り等の主体的な学習習慣を身につけることなどを学ぶ。 	
	基礎数学	○							<ul style="list-style-type: none"> 専門分野での学びに不可欠な基礎学力を身につける。 基礎知識の習得を目指した講義と、知識と実技の連携を目指す実験・実習を通して学ぶ。 	
	基礎物理学	○							<ul style="list-style-type: none"> 情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 数値・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 	
情報科学		○	○	○	◎	○	○		<ul style="list-style-type: none"> 情報の取り扱いやその倫理などの情報リテラシーの基本に加え、コンピュータの活用方法を学ぶ。 数値・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 	
外国語科目群			グレーの部分は、○・◎不要です					英語や初修外国語の学習を通じて、各言語の運用能力を養成し、日本語とは異なる言語の世界への理解を深めることを目指す。		
	英語				○				<ul style="list-style-type: none"> 基礎英語力及び英語コミュニケーション力を養い、十分な言語運用力と自律学習スキルを取得する。 基礎英語は、高校までに身につけた英語力の充実を図り、大学で自律的に学習を続けるための基礎力をつくる。 主別英語は、科学・時事・文学・文化などのコンテンツを英語で学び、基礎英語で身につけた英語力と自律学習スキルのさらなる向上を図る。 発信型英語は、自信を持って、英語でコミュニケーションをするための話す力と書く力を身につける。 	
初修外国語				○					<ul style="list-style-type: none"> 英語と異なる外国語の運用能力の基礎を固め、その言語の世界における物事の見方や考え方に対する理解を深める。 	
学科共通科目	STEM概論	◎	◎	○	◎	○		◎	理工学教育におけるSTEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) の重要性を理解すること。専攻する専門分野について理工学の他分野との関係を理解すると共に、理工学全体を俯瞰して捉えることができること。	
	STEM演習	◎	◎	◎	○	○	◎	○	○	課題に対する調査、実務者ヒアリングや現場での体験、グループ討議とその整理・レポート作成を通じて、自ら考える能力、対話力、文章力を身につける。グループ発表を通して、人にわかりやすいプレゼンテーションの方法について学ぶ。
	技術英語入門				◎					理工学分野の英語を聴く技術を上達させること。英語で効果的に話す能力を習得すること。実際の専門的な読み書きの技術を上達させること。専門的な英語をより深く理解する能力を高めること。
	技術英語基礎1				◎					学術的・専門的のために英語の聴き取りの技術を上達させること。技術的な用語の組み立てに必要な単語・語彙の理解を深めること。専門用語の関連定義を理解すること。より分かりやすく英語を話すという能力を高めること。
	技術英語基礎2				◎					工学および科学技術で使う英語の文書を書く技術を上達させること。今考えていることを英語で論理的にまとめること。英語で話す技術と発表技術を高めること。
微分方程式1	◎								一階常微分方程式を求積法により解くことができる。線形微分方程式に関する基本的性質を理解できる。	

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】		【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		科目の教育目標	
		(1)数学、自然科学および情報工学、知能工学、光工学の専門的知識に基づき、複数の理学と情報工学、知能工学、光工学分野を組み合わせ問題解決できる。	(2)複数の理学と情報工学、知能工学、光工学の専門的知識・技術を活用して情報・光システム全体を俯瞰できる。	(1)系統的な専門教育課程のもとで情報、知能、光の科学技術に関する課題を創造的に見出し、与えられた制約のもとで論理的に問題解決できる。	(2)日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力及び国際的文化を理解し、国際的に通用するコミュニケーションができる。	(1)科学技術に携わるものとして、幅広い視野で社会的責任と倫理観を絶えず意識しながら個々の使命感を持って自律的に行動できる。	(2)常に目的意識を持って継続的、自主的に学習でき、独自の工夫やアイデアにより新しいものを創出できる。	(1)現状の情報・光システムにおける社会的課題を分析し、複数の専門的知識・技術を統合して解決し、その成果を社会に還元できる。	(2)情報技術、光技術の関連分野のみならず、システム設計の能力を活かせる各分野で柔軟かつ幅広く活躍できる能力をもち、国内外の社会に貢献できる。		
コース基盤科目 (学科開設科目)	微分方程式2	◎								ラプラス変換とその応用ができる。 簡単な定数係数連立線形常微分方程式が解ける。	
	確率統計学	◎								基本的な確率の計算ができる。 基本的な確率分布が理解できる。	
	ベクトル解析	◎								ベクトルの演算、空間図形の記述、ベクトルの場の微分が理解できる。 ベクトルの場の積分、積分諸定理が理解できる。	
	複素関数論	◎								複素微分、正則関数の概要が理解できる。 留数概念の理解とその応用ができる。	
	数値解析	◎								数値誤差について理解する。 基本的な数値計算法を習得する。	
	プロジェクトマネジメント基礎			◎	○		○	○		グループ活動の中で自らの意見を述べ、仲間の意見を理解する能力を身につける。 課題の抽出および解決する能力を身につける。 プロジェクトの立ち上げから終結までを計画して実行する能力を身につける。 成果を公の場で発表する能力を身につける。	
	アイデア・デザイン創造					○		◎	○	アイデア・デザインの創造過程を習得する。 自分自身のアイデア・デザインを「新規性」「有用性」「独自性」等のある内容にフラッシュアップする能力を習得する。 「新規性」「有用性」「独自性」等を書面とできる表現力を習得する。	
	アントレプレナーシップ演習			◎	○	○	○	○	○	起業家との対話を通じてアントレプレナーシップのより具体的なイメージをつかむ。 ワークショップを通じて自ら課題を見つけ、解決するまでのプロセスを体験し、チャレンジ精神、創造力、行動力、判断力など起業家的な精神と資質・能力を習得する。	
	アプリケーション開発演習	○	○	○				◎		コンピューターの簡易なアプリケーション開発ツールを利用して、CG、VR、ゲームなどのアプリケーション開発の方法を学び、実際に開発を行う実習を通じて、コンピューターを活用する能力を身につける。	
	短期インターンシップ					○			◎	○	事前学習により、社会人として必要な知識を理解し、社会人、職業人として相応しい行動がとれる。 学外研修で実習テーマの内容を理解するとともに、課題解決に努め、これらの内容を報告書にまとめる能力を養う。
	実践力養成型インターンシップ					○		○	○	○	徳島県内の企業・団体が抱える課題に対して、受入先と学生が協働してミッションの達成を目指す、実践型のインターンシッププログラムにより、社会人としての素養(職業人意識)やコミュニケーション力を磨く。
	ニュービジネス概論						○	○	○	○	ベンチャービジネスを起業するために必要な知識を習得するとともに、ビジネスプランを作成できるようになることを目標とする。
	労務管理		○					◎			組織の労務管理の基本と各自の立場に応じた対処方法について理解する。 最新の労働環境の動向を理解する。
生産管理		○								生産管理の各手法を概略理解する。 企業マネジメントの中での位置づけを概略理解する。	
	コンピュータ入門及び演習	○		◎	○	◎	○	○		情報倫理と情報セキュリティが説明できる。 基本的なコンピュータの操作(コンピュータを用いた読み書き算)ができる。 簡単なプログラムの作成と実行ができる。	
	プログラミング入門及び演習	◎	○	○		○	◎			プログラミングの基本概念を理解できる。 実習を通じてプログラミング力を養うことができる。 コンピュータを用いた問題解決能力(アルゴリズム作成能力)を身につけることができる。 ハードウェアの基礎、計測・制御の基礎をプログラムを通して理解できる。	
	アルゴリズムとデータ構造	○		○		○	◎	○		基本的なデータ構造(配列、リスト構造、木構造)を理解できる。 代表的な探索・ソートのアルゴリズムを理解できる。 適用分野に応じてアルゴリズムを選択・設計できる。 代表的な文字列照合のアルゴリズムを理解できる。	
	信号処理	○		○		○	○			信号と信号処理の基礎原理が説明できる。 フーリエ解析やシステム解析の原理と応用方法が説明できる。	
	ソフトウェア工学	◎	○	○						大規模ソフトウェア開発に適用される様々な手法、特に構造化分析設計およびオブジェクト指向分析設計を理解し説明できる。	
	プログラミング方法論		○	○					◎	オブジェクト指向プログラミングの利点が説明できる。 オブジェクト指向でソフトウェアを設計できる。 オブジェクト指向言語でソフトウェアを作成できる。	
	情報通信理論	◎	◎	○						情報源符号化、通信路符号化の概念及びいくつかの具体的方式を理解し、説明できる。 待ち行列理論の基礎を理解し、説明できる。	
	論理回路設計	◎	◎	○						論理回路をモデル化し、システマティックに論理回路が設計できる。 単なるノウハウとしての技術ではなく、応用力が身につくように各手法の背後にあるアイデアを理解し、説明できる。	
	画像工学	◎	○	○						デジタル画像処理の手法を理解する。 デジタル画像処理システム設計法を理解する。	

科目名	ディプロマポリシー		【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】		【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		科目の教育目標
			(1)数学、自然科学および情報工学、知能工学、光工学の専門的知識に基づき、複数の理学と情報工学、光工学分野を組み合わせて問題を解決できる。	(2)複数の理学と情報工学、知能工学、光工学の専門的知識・技術を活用して情報・光システム全体を俯瞰できる。	(1)系統的な専門教育課程のもとで情報、知能、光の科学技術に関する課題を創造的に見出し、与えられた制約のもとで論理的に問題解決できる。	(2)日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力及び国際的文化を理解し、国際的に通用するコミュニケーションができる。	(1)科学技術に携わるものとして、幅広い視野で社会的責任と倫理観を絶えず意識しながら個々の使命感を持って自律的に行動できる。	(2)常に目的意識を持って継続的、自主的に学習でき、独自の工夫やアイデアにより新しいものを創出できる。	(1)現状の情報・光システムにおける社会的課題を分析し、複数の専門的知識・技術を統合して解決し、その成果を社会に還元できる。	(2)情報技術、光技術の関連分野のみならず、システム設計の能力を活かせる各分野で柔軟かつ幅広く活躍できる能力をもち、国内外の社会に貢献できる。	
情報セキュリティ			○	○	○		◎		○	○	情報セキュリティについて、機密性、完全性、可用性を説明できる。著作権、プライバシー保護について説明できる。情報社会及び情報倫理について説明できる。暗号技術の使い方について説明できる。情報セキュリティ管理技術について説明できる。
生体情報工学			◎		○	○	○	○		○	生体医用工学と知能情報工学との関連性を理解し、人工知能へのアプローチに関する基礎知識を修得させる。
離散数学			◎	○	◎	○	○	○	○	○	計算機科学の基礎である離散数学を工学的立場から講義し、演習・レポートを通して理論と情報処理手法を修得させ、離散的手法の理解と応用力を育成する。計算機科学の基礎である離散数学を工学的立場から理解することを目指し、以下の到達目標を掲げる。 1. 集合の概念及び集合・論理演算や数学的帰納法による問題解決を説明できる。 2. 関係の概念を説明でき、関係を幾何学的に表現しながら関係に係わる問題解決を説明できる。 3. 関数の概念を説明でき、関数を幾何学的に表現しながら関数に係わる問題解決を説明できる。 4. ベクトルと行列の概念を説明でき、図形処理を含めた行列演算による問題解決を説明できる。 5. 離散数学の諸概念をデータベースシステム等におけるアルゴリズムやプログラミングに適用できる。
電気回路及び演習			◎	○	◎		○		○	○	日常生活における電気回路実装について意識し、対象を抽象化、数値モデル化できる。 回路方程式の導出と同時に、必要な変数について手順よく解く手順を説明できる。 電力、効率や要求事項を満たす回路設計について求める指針を説明できる。
グラフ理論			◎	◎	○	○	○	◎	○		計算機科学の基礎である離散数学とグラフ理論を工学的立場から理解し、分析できる。また、与えられた問題を様々なグラフ表現で説明でき、基本的な探索問題を解くことができる。
コンピュータネットワーク			◎	◎				○		○	コンピュータネットワークを支える各要素技術について学修し、その全体像を体系的に把握すると共に今後の課題を認識する。
ソフトウェア設計及び実験				○		○		◎		○	抽象的な問題を具体的な問題に分析し、方針を決め、適切な手法をとり、粘り強く問題を解決できる。 チームで協力しあって企画、スケジューリング、設計、製作、評価、保守などの各プロセスを期限内で遂行できる。 成果を口頭または文書により明確かつ論理的に表現でき、プレゼンテーションによって双方向コミュニケーションを行える。
情報数学			◎	◎	○				○	○	情報技術に関連する数学的基礎知識(集合と関係、ブール代数、代数系)を説明できるようになることを目標とする。
マイクロプロセッサ			◎	◎	○			○	○	○	マイクロプロセッサの仕組みと動作原理を説明できる。 マイクロプロセッサ内部の情報表現と2進数での演算方法を理解し説明できる。 マイクロプロセッサのプログラミング(アセンブリ言語)について理解し実装できる。 ソフトウェアとハードウェアの関係を説明できる。 本講義では、マイクロプロセッサの基本的な仕組みと動作原理について習熟し、マイクロプロセッサを活用するために必要な知識を獲得することを目的とする。また、アセンブリ言語の原理を理解し、それによるプログラム作成能力を身につける。
コンピュータアーキテクチャ			○	○	○						コンピュータアーキテクチャの基本を説明できる。 コンピュータの高性能化に不可欠な要素技術と課題について説明できる。 コンピュータシステム設計・構築のために応用できる。
電子回路			◎	○	○		○		○	○	ダイオードやトランジスタ、FETなどの各デバイスの原理や特徴を定性的に説明できる。 各デバイスの数値モデルを示し、特性曲線を描いて説明できる。 エミッタ接地やソース接地基本増幅回路の小信号等価回路および直流通等価回路を導き出して、かつKVL、KCLを適用、回路方程式を立てられる。 自己バイアス増幅回路について、その目的や動作原理を説明できる。 オペアンプの応用回路について、それらの動作特性を回路方程式をもとに説明できる。
知識システム			◎	○							探索に基づく問題解決の原理および応用方法を説明できる。すなわち、状態空間上の解の探索過程として問題解決を定式化し、基本的な探索手法を用いて問題解決を行う方法を説明できる。 知識に基づく問題解決の原理および応用方法を説明できる。すなわち、述語論理を用いて知識を表現し、導出原理に基づく定理証明手法を用いて問題解決を行う方法を説明できる。
オートマトン			○	○	◎						情報工学、計算機科学一般において中心的な概念であるオートマトンと言語理論の基礎について講義し、オートマトンや正規表現などの理論と考え方を修得させる。
線形システム解析			◎		○						物理システムの解析及び構築に不可欠な技術である線形システム解析の基本的な手法を理解し、応用力をつける。 ラプラス変換を用いて線形微分方程式を解くことができる。 ボード線図上で安定余裕を読み取ることができる。 部分的モデルマッチング法によって、1-PP制御系を設計できる。
数値計画法			◎		○						数値モデルにもとづくシステムティックな解析・設計能力を養い、最適化理論やシステム工学といった学問体系の基礎となる。 シンプлекс法によって線形計画問題を解くことができる。 主問題と双対問題との関係を述べることができる。 最短経路問題、最小木問題、最大流問題を解くことができる。 最大流・最小カット問題の双対性を説明できる。

科目名	ディプロマポリシー	【1. 知識・理解】		【2. 汎用的技能】		【3. 態度・志向性】		【4. 統合的な学習経験と創造的思考力】		科目の教育目標
		(1)数学、自然科学および情報工学、知能工学、光工学の専門的知識に基づき、複数の理学と情報工学、知能工学、光工学分野を組み合わせ問題解決できる。	(2)複数の理学と情報工学、知能工学、光工学の専門的知識・技術を活用して情報・光システム全体を俯瞰できる。	(1)系統的な専門教育課程のもとで情報、知能、光の科学技術に関する課題を創造的に見出し、与えられた制約のもとで論理的に問題解決できる。	(2)日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力及び国際的文化的理解し、国際的に通用するコミュニケーションができる。	(1)科学技術に携わるものとして、幅広い視野で社会的責任と倫理観を絶えず意識しながら個々の使命感を持って自律的に行動できる。	(2)常に目的意識を持って継続的、自主的に学習でき、独自の工夫やアイデアにより新しいものを創出できる。	(1)現状の情報・光システムにおける社会的課題を分析し、複数の専門的知識・技術を統合して解決し、その成果を社会に還元できる。	(2)情報技術、光技術の関連分野のみならず、システム設計の能力を活かせる各分野で柔軟かつ幅広く活躍できる能力をもち、国内外の社会に貢献できる。	
システム設計及び実験	◎	○	◎	◎	◎	○	◎	◎	○	ハードウェア及びソフトウェアに関する個々の要素技術をシステムとして統合する能力を養うことを目的としている。また、グループワークにより自律型ロボットの作成を行うことで、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力の向上を図る。
オペレーティングシステム	○	◎								計算機を利用する上で必要不可欠な存在であるオペレーティングシステムの仕組みを理解する。
データベース	◎	◎	○							データベースの設計法を習得し、データモデリングについて説明できる。データベース操作言語を習得し、リレーショナルデータベースを設計できる。
人工知能	◎	○								知能システムのトップダウン的な構築の限界を説明できる。知能システムの創発的な構築のための要素技術である強化学習、進化計算および関数近似などの各手法のうち、代表的な手法の原理、応用方法および限界を説明できる。
最適化理論	◎		○							種々の問題を最適化問題に定式化する能力を習得する。線形計画問題に定式化された問題をシンプレックス法で解く手法とその原理を理解する。非線形関数の極値を勾配法で発見する方法(ニュートン法、共役勾配法、準ニュートン法)の手法と原理を理解する。動的計画法と分枝限定法の基本原理を理解する。
機械学習	◎		○				○		○	自然言語のコンピュータによる処理で必須な形式文法、そして、言語処理における基礎的な形態素解析、構文解析、そして意味解析と文脈解析技術を修得させる。授業で取上げる内容は、自然言語処理だけではなく、プログラミング言語処理にも有用な考え方と技法であるが、言語処理における重要なアルゴリズムを勉強し、知能情報工学を考える能力を育成する。
離散システム解析	◎	◎	○				○	○	○	状態方程式、パルス伝達関数、デジタルフィルタ等を理解し、説明できる。最小二乗法、連続系の離散化、連続系と離散系との関係を説明できる。デジタル計算機を基本としたシステム解析手法について説明できる。本講義では、デジタル型システムを表現するために必要となる状態方程式とパルス伝達関数の概念、デジタルフィルタの構成と応用、システム同定の方法論、及びそれらを用いてデジタル計算機を基本としたシステム解析手法について修得させる。
コンピュータネットワーク演習	◎	○	○				○	○	○	コンピュータネットワークの基礎技術を理解し、応用する能力を養成し、コンピュータネットワークの評価手法の基本を習得することを目標とする。
データマイニング	◎		○				○	○	○	データマイニングの基礎知識、知識発見のプロセス、そして基本的な学習アルゴリズムを修得させる。自然言語処理技術を生かすテキストマイニング処理手法および知識の制度評価技術を修得させる。
多変量解析	○		◎			○	○		○	複数の変数に関するデータをもとに、これらの変数間の相互関係を分析する技法を体系的に修得させる。アンケート結果等の多変量データを対象に、統計の基本から、回帰分析、主成分分析、因子分析、クラスター分析、判別分析(機械学習)等の考え方と方法を理解し、活用できる能力を育成する。
実験計画法	○		◎					○	○	情報システム設計・開発に際し、特に人間に対するインタフェースを有するシステムに対する学術的問い(Research Question)に基づく仮説を立て、それを観察や実験を通じて検証を行うための統計検定手法等の方法論・設計論を習得させる。
パターン認識	○		○			○	○		○	統計的パターン認識における基本的な概念と主要な技法を紹介する。データの分類や特徴抽出の概念と技法を含む。パターン認識の研究開発能力について、技術調査や発表を通じて紹介する。
アルゴリズムとデータ構造演習	○		○			○	◎	○		基本的なアルゴリズムやデータ構造を実装できる。ソースコードレベルで基本的なアルゴリズムの動作を説明できる。
知能情報概論	○	◎	○	○		○				導入教育を通して知能情報コースにおける学生生活に適應できる。研究課題の解決を通して自発的に情報を収集できる。報告書の作成やプレゼンテーションを通して基礎的なコミュニケーションができる。
雑誌講読	◎				○			○		卒業研究に関連する文献等を熟読し専門知識を深める。文献等を講読して得た知識を紹介するとともにその内容について討論できる。英文文献の講読を通じて、専門分野の英語読解力を身につける。
卒業研究	◎	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	研究活動を通して、技術者としての倫理観や責任感を論じることができる。英語の論文を含め研究に必要な文献等について読解できる。調査した文献等を的確に理解し、研究に活用できる。研究テーマについての背景や目的を論じることができる。研究目的を達成するための理論や方法論の新規性、有効性、信頼性について議論、検討できる。研究過程において得られた実験結果についての確に考察できる。研究成果に対して残された課題や今後の展望を論じることができる。研究成果をとりまとめて、他の研究者が読みやすい卒業論文を作成できる。研究成果を明確かつ論理的に口頭発表できる。口頭発表において双方向かつ的確に質問応答できる。指導教員の助言を得ながら、自主的、計画的、継続的に研究を進めることができる。研究グループ内での自分の役割を理解し、協同的に研究を進めることができる。